

第1回豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事概要

日時：平成27年7月15日（水）午後2時～午後4時25分

場所：豊能町役場大会議室

○開会

【1】町長あいさつ

【2】委員紹介

【3】会長・副会長の選出について

会長に猪井委員、副会長に足立委員が選出される

【4】諮問

【5】議事

（1）豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会要領について

原案どおり採択される

（2）豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の概要

（3）豊能町の概要

（4）人口ビジョン骨子案

（5）アンケートの実施について

○閉会

○第1回豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 主な意見

1. 人口ビジョン・総合戦略について

①町民が頑張れるようなプラス志向の内容とともに、コンセプトや具体策の提示が必要

- 人口ビジョン・総合戦略を見て「僕らが頑張らなあかん」と思ってもらえるよう、町民に変わってもらえるための戦略にする必要がある。
- 豊能町が健全な形になるためには、人口はどのくらい必要なか、人口を増やすためにはどうしたらいいのかということが大事。
- 危機感を持つというのは大事だが、マイナス志向だけではなくて、プラス志向をどのようにアピールできるか、あるいは具体策が出るかというのが大きなポイント。
- 全体的な町のコンセプト、町のイメージみたいなものを設定して共有できたらいいのではないか。

②東地区と西地区で分けた現状整理・方向性の設定が必要

- 西地区は税金を納める人を増やして、東地区はそれなりの田んぼを利用したいという人を増やす方向にしていけないといけない。
- 西地区と東地区は全然違うため、それぞれの地域で必要な施策を考えていかなければいけない。
- 西地区では「あそこに行けば、水準の高い教育を負担が少なくて受けられる」という仕組みをつくることで、ある一定の人口水準を維持していくという絵が描ける。東地区については、農業の再生なしで、東地区の再生は有り得ない。また、東地区には土地がたくさんあるため、いろいろな産業などを誘致することを積極的に考えないといけない。(病院や医療関係の研究施設等の誘致など)
- 「西地区ではこうしましょう」「東地区ではこうしましょう」というテーマを立ててほしい。
- 目標、コンセプトとともに、魅力などの資源を東西できっちりともう一度見直すのも良い。
- 可能であれば、人口予測を東西に分けてもらえたら。

③市町の枠、大阪府と兵庫県の枠を超えた検討・整理が必要

- 能勢電鉄を利用している住民は、府県の境を感じることなく兵庫県側に行くと、兵庫県を感じ取っているが、豊能町の行政は大阪府内に向けては色々いえるが、兵庫県に向けては言えない。そのような現状を踏まえて、社会増減への対策を進めるために、町として兵庫県内に何か打ち出せているのか、この点が課題。
- 大阪府、兵庫県という枠も越えて、地域で都市の機能を分担して持ち合うという発想も、戦略に入れていかないと、なかなか一つの行政単位だけで全てが達成できるわけではない。
- 政策等を整理していく際には、他自治体等との比較をしていく必要がある。(例えば、豊能町と川西市など他市町の教育支援制度や政策と比較する等)

④カンフル剂的な視点・取り組みと長期的な視点・取り組みの両方が必要

- 総合戦略については、まちを元気にするカンフル剂的な視点・取り組みと、体質改善するという長期的なスパンでまちをつくっていくという視点・取り組みが必要。
- カンフル的取り組みとして、大事なところに焦点を絞りつつ、全体的な町のコンセプト、イメージを設定して共有できたらいいのではないか。

⑤取り組みの方向性は人口減少に「歯止めをかける」と「対応する」の2本柱(提案どおり)

- 「人口減少・超高齢化社会へ対応する」という施策の中で、また、人口が減っていくという前提でコンセプトとして打ち出していくべきである。
 - 実際には人口減少に歯止めをかける取り組みもしていないのに、いきなり「人口減少・超高齢化社会への対応」というのはどうか。
- ⇒柱としては「人口減少に歯止めをかける」と「人口減少・超高齢化社会へ対応する」の2つ。
- ⇒「歯止めをかける」というか、人口減少に反抗していくという取り組みについても、やっぴいこうということで、その文言、表現を変えていく。

⑤その他

- 総合戦略では、既存の取り組みを促進していくという視点が必要。

2. 転出・転入（転出の抑制、転入の促進）について

①転出・転入の動向の把握が必要

- 転出のデータをもっとしっかりデータ把握をすべき。出て行くことを食い止めることは施策に結びつく可能性がある。
- 豊中市、池田市、箕面市、川西市、吹田市への転出の理由は何か。この部分への転出者は、もしかすると、豊能町でも住み続けることができたのではないか。
- 可能か不可能かは別にして、転出者へのヒアリングができればおもしろいのではないか。

②転入を促進するための魅力・特長等の整理（町の再評価）、魅力の創出や情報発信が必要

- 如何に転入をしていただく若い層を増やすかということが能勢電鉄の課題でもあり、若い層を前向きな話で誘致していく上では、豊能町の魅力というのを客観的に再評価すべきである。
- 新規転入者が入りやすいように、コミュニティの魅力を上げ、閉鎖性を解消するための色々な仕掛けや取り組みが必要。
- 地理的な部分はどうしようないが、そのような場所に若い世代が来てくれるよう、町の魅力を発信していく必要がある。例えば、若い世代が住宅を購入する際に、豊能町を選択してもらえよう、教育等の特長を出していくことが重要。

③住まい方や住民の循環（入れ替わり）についての検討・取り組みが必要

- 20代の転出が多くなっているが、豊能町には単独世帯住宅が多く、二世帯住宅がないので、必然的にそうなるのかも知れない。その対策を具体的に検討していくことが必要。
- 住む人の入れ替わりはある。住む人の属性や持っている条件によって、住み方が変わってくる。それに合わせて町で取り組みを進めれば、人の入れ替わりがあっても、必要なものは引き付けられるのではないか。
- （西地区では）「あそこに行けば、水準の高い教育を負担が少なく受けられる」という仕組みをつくり、発信することで、住宅は安いので若い世代が転入する。そして、子どもが大学や就職で巣立っていき、自分が年を取ったら、子どものところへ転出していき、また別の若い世代が転入してくるという流れで良い。（再掲）

③教育がポイント

- 子育て世代の女性にとって、子育て環境では安全や自然も大事だが、学業や将来性がどれくらい広がるのかという教育に関する点も心配になる。その辺りを合わせ持っていれば、子育てをする世帯に対する強みができるのではないか。
- 15年前に出生数を見ても人口が減少していくことがわかったはずで、15年あれば、教育についても長期的な取り組みができたのではないか。
- 西地区の売りは教育であり、大阪府下でも指折りの進学率が高い中学校や小学校があった。しかし今は減ってきており、町の政策次第では、それをもう一回復活することは可能。近隣の市町村に無いような教育支援を打ち出したらよい。
- 教育については、今後もう少し検討が必要。

3. 産業振興・起業等について

①交流人口の促進などによる地域活性化の可能性（主に西地区）

- 能勢電鉄の取り組みにより妙見口の人の流れが大きく変わった。あと吉川自治会の地域活性化の取り組みなども含めて、地域外から人を呼んで外貨を稼げる要素はある。
- 近隣であれば、川西市黒川地区のダリア園や一庫ダムもあり、地域がらみで連携したら、まだ復活というか、外貨を稼げる要素はあるのかなと実感している。
- 能勢電鉄として、西地区に特化した形になるかもしれないが、交流人口や観光人口を増やす取り組みは引き続き進めたい。
- 吉川地区では、「能勢電鉄の利便性」「里山環境の保全」「教育、自然の中になる学校」の3つを柱にまちづくりを推進。

②都市圏に近いというメリットと町内で完結した検討の難しさ

- 豊能町は都市圏に近いというか、トンネルが出来たこともあり、大阪市内もそうですし、北摂に行くのも20～30分走れば、十分勝負できるマーケットがある。
- 若い人材を町内で探すのは難しい状況にあり、実際にどうやってマッチングをするのか、その方法について、色々と考えていく必要がある。
- 物を作って販売する会社では、豊能町内だけで完結させて町内だけで考えるのは難しい。

③農業振興と産業誘致が必要（主に東地区）

- 豊能町を発展させるためには産業振興が必要であり農業が重要となるが、少子高齢化で耕作放棄地が増えており対策が必要。家族単位ではなく法人組織での大規模経営による農業が必要。農業の再生なしで、東地区の再生は有り得ない。
- 東地区には土地がたくさんあるため、いろいろな産業などを誘致することを積極的に考えないといけない。（病院や医療関係の研究施設等の誘致など）
- 農業について、都市に住んでいる人が農業を手がけようとした時に、豊能町であれば、距離が非常に近く、手がけやすいため、そういう点を狙うのか。一方で、農業専門の人たちに強くなってもらって、例えば、豊能町でしかつけれない甘い果物とか、そういう形にしていっての方がいいという考え方もある。

④町内での起業は難しいのではないかな？

- 豊能町では起業しにくい。住宅街や市街化調整区域で縛られており、何ができるのか、豊能町で起業するメリットがどこにあるのか。商店の現状を見れば、西地区のマーケットでの起業は厳しいかなと思う。
→市街化調整区域については、市町村が審議会で地区計画として議論はできるため、その必要があるのであれば、戦略として書けるのではないかな。
- 西地区は何をするにも土地が狭く、区画整理ができていないので、金儲けというのはまずは出来ない。農業についても菜園レベルであれば良いが、利益を出すのは無理。起業するのであれば、サラリーマンになる方がはるかに楽。

⑤その他

- 一村一品運動について、豊能町では果たして町を挙げてその取り組みができるのか。仕事や雇用にも関係し、魅力の発信にもなるので、その点について如何に具体策を打てるかが重要。

4. アンケートについて

- 豊能町に留まりたくても留まらなかった人が転出した理由や、転入者が魅力と感じたことなどを再度きちんと評価して、それをPRしていくためにも、アンケートは必要。
- 今までもこういう意見を言ったり、話したりということは少なく、アンケート調査があったとしても、その結果を取り上げてもらってないなと感じていた。
- 教育に関する設問が無い。教育について、(子育て世代・保護者が)今思っていることや現状について把握するための設問が必要。
→教育委員会のアンケート調査などを確認し、把握できていないことなどについてはアンケート調査に設問を追加するように検討する。
- 教育をコンセプトに含めるのであれば、教育に関する設問を追加する必要がある。教育に関する意識・動向と転出意向などを掛け合わせて分析する必要もある。
- 東地区は農業という意見があったが、農業についてアンケートのどこかに入れて聞くことができたらいいのでは。